

教育フォーラム 2021

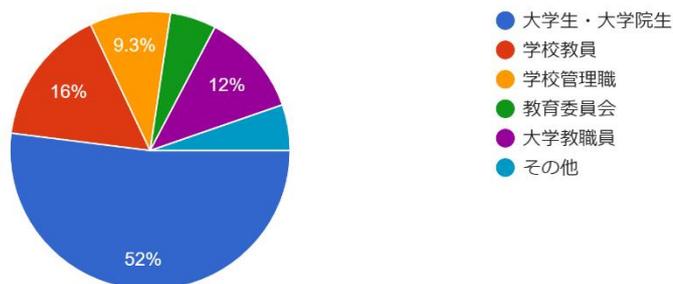
同時視聴者数：約160名、6月13日時点のビデオ視聴者数：1067回

アンケート回答数：75 2021年6月13日21:19時点

当日のビデオ：<https://youtu.be/BGoDHm2nJHw>

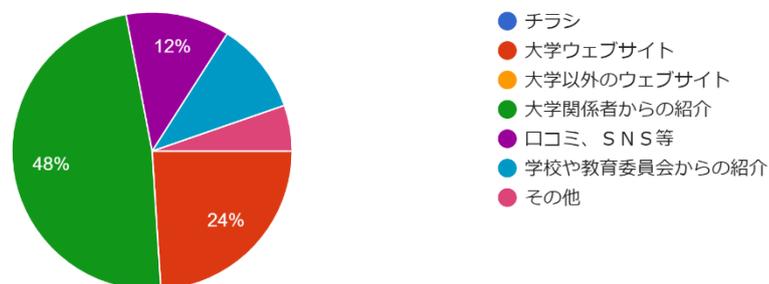
1. ご職業等

75件の回答

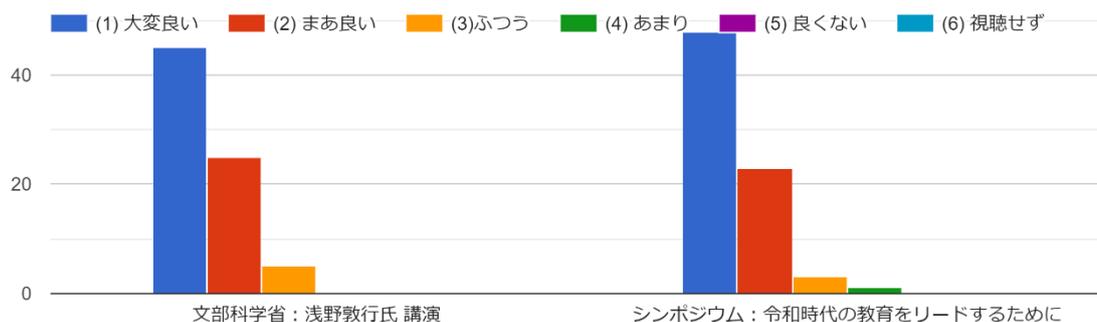


3. 本フォーラムの情報源（どこでお知りになりましたか？）

75件の回答



4. フォーラムの各セッションについて「(1)大変良...」良くない」「(6)視聴せず」でご回答ください。



感想等（47名分）

現場の感覚とは少し離れた話題にパネルディスカッションでなる場面があった。
現場で具体的にどのようにしていけばよいのかのヒントとしては抽象的すぎたのではないかと。
特に学生では自分たちかどうしていけばよいかは混沌としてしまうのではないかとと思う。

篠原先生の最後の話しをもつと時間をかけて聞きたかったです。すべての子どもに学習保証をと
思います。文科省の浅野先生の話しを現職の先生方はどこまでご存知なのかなと思いました。
県庁や市町村の教育事務所経由になっていく間に、違う話しになっていないかと思うこともあり
ます。

浅野氏の講演は、およそ知悉の事項であったので目新しさはなく（主に学生さん向けかなと）。
シンポジウムは非常にエキサイティングでした。今後、行って欲しいのは、学校教育に参入する
企業のEdTech（電子教科書、AI利用電子ドリルを含む）が、どのように学校教育に参入したり、
設計思想を持っているかを、学生さんに伝えるような企画があると楽しいかと思います。

大変勉強になりました。

子どもが小学生の身としては、今後支給された端末に使われるのではなく、使いこなすツールと
してうまく進めていただきたいと願っております。

企業で働くとき日常的に情報端末を使い業務を進めますし、対人コミュニケーションも社内社外と
ともに発生します。そういった状況から逆算して教育していくことができれば理想ですが難しいの
も理解しております。

ただ個人としては、小学校では端末使いこなすことよりも物事の善悪を知り、後悔したり、成功
や失敗をいっぱい経験して、人生を豊かに過ごせる人間性を育てたい、そのために先生には
助力いただきたいと思っています。

貴重な機会をいただきましてありがとうございました。

これからのICT教育について 具体的なお話をいただき とても参考になりました。開かれた大
学教育という思いが伝わり 嬉しく拝聴させていただきました。どうもありがとうございます。

今日は今後の教育のあり方について、お話をお聞かせいただき、ありがとうございます。篠原先
生がおっしゃられた個別最適な学びを制度的に認めることは、不登校の生徒が学習をすすめるき
っかけになると思います。ビルドばかりで、管理職も教員のモチベーションをあげるために苦
労があります。しかし、今日のお話しを聞いて元気ができました。ありがとうございます。

次のことが新たに気づきました。

- ・(篠原先生) 日本の学校は大正時代の知徳体がベースになっていること
- ・(芳賀先生) OECD より日本の学校教育について、いいも悪いも4つの指摘
- ・(吉永先生) 自由について、海外と日本での捉え方の違い

今、現場には一人一台のタブレットが入ってきました。毎日、機械トラブルが発生し、業務が確実に増えています。また、コロナ対応で学校行事が当初に決めていた日程通りにできなくなっています。

(今後行ってほしい企画)

- ・標準授業時数について話を進めてほしいです。去年は標準授業時数を何としても確保しなければならぬと夏期休業期間を削りました。しかしながら教科によって時数を少なくしやすい教科とそうでない教科もあるのに、一律に標準授業時数を確保するよう教育委員会より迫られています。
- ・学習評価についてお願いします。入学試験があるから客観的な評価が必要だから(ここですすでに間違っているのですが)ということで、成績をつけるための説明責任が求められます。生徒は趣旨をわかってくれる、でも、世間の理解が成績をつけるための評価から抜けられない、どうしても昭和20年代の相対評価から抜け出せないのです。

大正時代の知徳体がベースになっているというお話がありましたが、緒川小学校(まだ行ったことがないのですが)の実践は古くなく新鮮であり、すでに個別最適な学びを実践していたのだと感じました。

もっと学校の仕組みが緩やかにならないのでしょうか。あらゆることに説明責任を求められていくと、教職員はもっと疲弊していきます。学校だけへ過度な期待と役割が持たされないようにと思いました。

素晴らしい企画をどうもありがとうございました。浅野氏のプレゼンテーションは既知事実の講演といった印象でしたが、分かりやすいものでした。後半の先生方のお話が未来を向いていて、新しい視座を提供していただき感動しました。とくに英語の論文を読んだりする時間は我々にはなく、感銘をうけました。

令和の日本型教育に対してなんとなく抱えている問題点を言語化していただきすっきりとした余韻があります。

加えて、先生方の質問には浅野氏はもっと正対して応えていただきたかったです。特になにをスクラップするのかについてハッキリとした意見をださないと、現場もついて来ないし、これ以上入る隙間がない状態の教育界に令和の日本型教育が浸透しなくなります。

岐阜の教育の素晴らしさはよく聞いています。我々も見習おうと思います。本日はどうもありがとうございました。

岐阜聖徳学園大学卒業生です。現在、岐阜県内の小学校に勤務しております。今年度、校内の ICT の活用推進を担当することになり、ICT の利活用のヒントになればと思い、今回のフォーラムを視聴しました。

令和の教育(学び)のスタンダードとして1人一台のタブレット端末が貸与され、個別最適化の実現が目指されています。本日のご講演で、これからの教育現場には、個別最適化や協同学習を目指すために、効果的な ICT の活用を実践していく必要があると考えました。

昨年度より、ICT を活用した授業実践をしており、児童一人一人が表現したことが、リアルタイムで双方向に教師とつながることの便利さ・よさを実感しています。また、活用方法次第では、協働的に学ぶために優れたツールであると感じるようになりました。今後、今までの教育実践を踏まえ、効果的な ICT の活用方法を考え、実践していくことが、児童生徒一人一人に資質能力を育むために大切です。

しかしタブレット端末に不慣れな教員が多く、「結局、紙がいい」と言う、抵抗感のある教職員もいます。必ずしも全ての授業でタブレット端末を使った授業をしてほしいとは思っていませんが、教職員の意識に課題があります。おそらく、何のためにタブレット端末が導入されたのか、その目的もわかってない教員もいるのではないかと疑問を感じています(4月の職員会で提案しましたが…)。昨年度 ICT を活用した授業を自主的に公開しましたが、参観された職員は50名中4名。年齢層の高い学校なので、今回のご講演にあるような令和型の教育を目指すにしても、いくつもの高いハードルを超えなくてはなりません。これまでの教育を否定するわけではありません。ただ、これまで教育実践と ICT とをうまく結びつけて(ベストマッチさせて)、より児童生徒の資質能力を育みたいと思いますが、ハードルが高いのが現状です。ICT を活用することのよさを早く実感してもらえるように働きかけたいと思います。

今回のフォーラムを視聴した学生は、令和型の教育がスタートラインとなります。GIGA スクール構想で目指すこと、授業を考え、タブレット端末を効果的に活用できるところで活用すること、協働的な学びを目指すことなどが、より理解できたと思います。これからの時代の教育方法を一緒になって考えていける仲間がはやくできることを願っています。

講演会後のディスカッションが大変興味深かったです。スクラップをしていない、ビルドビルドだとのことご意見に、賛成です。

8人とは言え、現役の教員が文科省に入られているのなら、彼らから積極的にスクラップの具体例を進言して欲しいものだと思います。または、現場の声を吸い上げて欲しいと思います。

「日本型」の鋭い分析にも、そんなに荒っぽいやり方だったのかと、驚かされました。

真実をしっかりと見極めることの大切さ、難しさを教えていただきました。

Icy 機器をより良く生きるための道具として使えるよう、子どもも大人も心を育てて行かねばと感じました。

本日は、ありがとうございました。

大学の先生方のシンポジウムでの鋭いご指摘の数々により、深い学びを得ることができました。文科省からその時点で下ろされることだけを、鵜呑みにしてはいけないということを改めて感じました。ICT が文房具として傍にあることが当たり前の時代に、「より善く生きるために」学び、ICT を活用していくことを、大人も子どもも意識する必要があると感じました。しなければならないことの多さに押しつぶされそうな毎日ですが、次世代のために、下支えをしていく所存です。本日は、ありがとうございました。

学習指導要領のコード化などのお話を伺っておりますと、これからの子どもたちには、課題を解決するために必要な情報を探す力、情報の真偽を確かめる力、取捨選択する力が一層必要だと感じました。

教員から一方的に与えられるのではなく、自分で課題を発見でき、その課題の本質を見抜き、解決するためのプロセスを考え、最適解を創り出せる、こういったコンピテンシーを身につけさせるよう、一層努力いたします。元気とやる気をいただきました。ありがとうございました。

岐阜教育大学時代の卒業生です。東京で指導主事をしておりますが、こうして母校と繋がりを持てたのもオンラインのおかげです。ありがとうございました。

ICTを現場で推進する立場として、不安や不満の声を受け止めつつも、立ち止まって走る理由を考えるより、走りながらその理由を積み重ねるようなような毎日を送っています。文科省の情報を分かりやすく説明してくださったり、自分に無い視点を与えてくれたりした点は大変ありがたい一方、止まる事も後ずさりする事も出来ない戦いに立ち向かっている現場の先生方に、強く背中を押してくれる様なパンチの効いた声もいただきました。玉置先生の最後の質問はそのようなものだと思います。

ICTは教師の指導を変え、子供の学びを変え、学校の在り方も変えていくものだろうと思います。それは今の教師や子供のために必要な事で、未来の教師や子供のためにも今やるべき事です。篠原先生の仰る通りやる事が多すぎるからこそ、我々がシンプルに道を示すことが大切だろうと思いました。先生方のお話を伺いながら、改めて考える機会をいただきました。ありがとうございました。

明日はなるべく早くドームに行って、野球部を応援します。

私も疑問に思っていた「令和の日本型教育」に対する、率直な質問を投げかけていただき、深く考えさせられるシンポジウムでした。働き方改革ばかりが強調されると、これまで高い水準を維持してきた日本の教育の質の低下が懸念されますが、科学的な検証に基づいて、学校の役割や学びの質、関係者との連携の仕方などを、働き方の効率化を含めて、総合的に解決していかなければいけないと思います。教育は100年の計という理念を、国にしっかりと持っていただき、教師の専門職としての地位の向上を中核とした、持続可能な教育の質の向上策を関係者が共に築いていけたらと思います。示唆に富むフォーラム、ありがとうございました。

担当の皆さま、お疲れさまでした。ありがとうございました。

個別最適化に焦点化されたのはヒットでした。ただ、『個別最適な学び』と『協働的な学び』を一体的に充実させる」「GIGA 構想は個別最適化の重要なツール」…異論はありませんが、その中身が心配です。big data を基に結局はAI が教材や学習方法を指定するという図式、本当に妥当性のあるものなのでしょうか。センシング技術を駆使して本当に必要な定量的な data が取れるのでしょうか。学びの機会を保障すると言いながら知識理解偏重から一歩も出られず、一方で「指導要領コード」で縛り付けることにならないのでしょうか。第一、関心・意欲・態度の評価場面は少しもクローズアップされていないという現実をどう考えたらいいのでしょうか。民主的な生き方を育てるために学校の自由度を高めるという文化がなかなか認知されない現実をどう考えたらいいのでしょうか。

鍵は、現場の校長や教員の意識改革をどう図って行くかだと思います。その意味では、「個別最適な学びと協働的な学びを一体的に」などといつまでもきれい事を言うべきではありませんし、「二項対立的ではない受け止めが重要」などと断り書きや言い訳を言うべきではありません。

言うまでもなく、個を捉えなければ、個に応じることはできません。コンピテンシー重視の立場から、生きている教師が生きている子どもを多面的に捉えて、初めて個別最適な学びの工夫ができるのだと思いますし、個性化教育の原点はそこにあります。

多くの日本の教師にとって「一人一人に応じる」というフィロソフィが欠落していることこそが問題です。私は、浅野氏の前職である学校施設関連の委員を務めていたとき、「教室に隣接する位置にクールダウン用の小部屋を設けよ」と整備指針で指示を出しても全国の学校は変わらなかったのが現実です。

誤解を恐れずに言えば、協働的な学びは現場で十分努力されています。個別最適化に傾斜した戦略を立てないと、令和の時代の新しい日本型教育は生まれてこないのではないかと・・基調提案やシンポを聞きながら、そんなことを考えていました。

ありがとうございました。

これからの日本の教育の方向性が整理できました。ありがとうございました。

仕事の都合上、途中からの参加視聴で、申し訳なかったですが、特に令和の教育の在り方や、学校教育の進め方について知ることができて、良かったです。とても、参考になりました。ありがとうございます。

浅野氏のご講演は情報が多く、大変興味深く拝聴しました。GIGA スクール構想だけでなく、社会に開かれた学校という面でも改革が進んでいることを知り、教職の授業でもその部分も取り入れなければいけないと思いました。本日の資料を挙げていただけるとのこと、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

直接、初等中等教育を対象とはしていないのですが、現状や提案など非常に勉強になりました。ご案内くださり、ありがとうございました。

少し難しかったが、浅野先生の公演では、学習者用のデジタル教科書を巡る制作が進められていることが分かった。1人1台の端末があるのだから、そこに教科書を全て入れられたら良い。しかし、書物を読む能力も必要である。そのため、国語など書物に親しみを持つ教科は本の教科書の方が良いだろう。デジタル教科書の場合、拡大できたり、音声で文を聞くことができたりするため、支援が必要な子どもにも有効であるだろう。

シンポジウムでは、令和における日本の学校教育に求められることが多すぎるということが分かった。その中で必要だと思われることを順番にやっていくべきである。

日本の教育の問題点やこれからの教育にわたる令和の日本型教育の在り方について、様々な視点から詳しく知ることができた。

令和の日本型教育を実現するためには、知・徳体のバランスの取れた資質・能力の育成に向け、状況をみながら、取り組みを進めて行くことが必要であることを学んだ。

個別最適な学びは児童生徒の個性を重視した教師の指導の個別化ということを受けて、教師が授業の中で具体的な実践としてイメージできるかということが大切であると考えた。それに限らず、文部科学省によって示されたものを教師がその意図をよく読み取って解釈し、教育に実践していくことが大切だと思った。また、出された情報をそのまま鵜呑みにせず、出典やその情報の根拠を批判的に考えることも大切だと思った。

①状況もあって仕方がないが現場に行きたかった

②ぜひ、YouTube のコメントを拾うなりして私たちからの質問コーナーを行って欲しい

③画面のスライド等切り替えなどとても見やすかった

GIGA スクール構想やこれからの ICT 活用について学ぶことができました。

特に学習指導要領のコードで連携していくシステムに印象を受け、様々な場所から連携して教育が出来ることに驚きました。また、デジタル化が進むことで子供達の考える力が弱くなったり教員に求められる能力が大きくなったりするので、対応しながらもどんどん教員として学びつつ成長していかなければならないと感じました。

7月に教採を控えています、まだまだ ICT のことが知識も技術も自分には足りていないと思っているので、今日の学びを活かしつつ、試験に挑めるように勉学に励みたいと思いました。

ICT 活用の状況や利点等のみならず、ICT 活用により削減可能な授業時数を他の授業に充てるといった弾力的な考え方についても学んだり、恥ずかしがり屋な子どもたちの考えにもクローズアップすることができるようになるといった思いが感じられたりする、貴重な機会となりました。この度は本当にありがとうございました。

ありがとうございました。

コロナ禍で授業のオンライン化やオンデマンド型が増えている中で、環境の整備や先生方のやり方などの知識を持つことが今後考えていかなければいけないのかなと思った。

各先生方の考えが聞けて、とても参考になりました。変化を恐れず、受け入れていく姿勢が必要になるのかなと思いました。ステレオタイプ的な考え方ではなく、多様な見方・考え方で教育を進めていける人間でありたいです。ありがとうございました。

学校教育の ICT 化については、一般企業（特に IT 業界）も関わっている。どのような価値観で動くべきなのかなどのシンポジウムも行って頂きたいと考えております。

教授同士の対談など、開催してほしい

現在、1人1台タブレット端末の普及は進んでいますが、活用できていない学校が多いと考えられます。実際、家庭教師で関わっている生徒の話聞いて実感している所です。浅野さんが提示してくださっていた学習指導要領コードや MEXCBT の普及によって、タブレット端末は正しく有効に活用されると考えられますので、一刻も早い普及とそのための教員への指導をお願いしたいと思います。また活用例を多くあげてくださると、教師になった時のイメージが付きやすいので、活用例の提示を多くあげていただきたいのと、活用されている学校の教師との交流機会を作ってくださいると良いのではないかと考えます。

今回は令和の日本型教育について大きな枠で話が聞けたので、次は一つのスポットに絞ったような企画が見てみたいです。例えば、働き方改革だけを扱ってのパネルディスカッション等が見てみたいです。

実際に令和の日本型学校教育を考えられている方の話を聞いて、令和の日本型学校教育の進むべき教育をイメージすることができた。これから教員として目指すにあたり、これまで継承されてきた教育にプラスして、新しい力が必要となる教育であることは力強く感じた。

個人的には、個別最適化な学びとはなんでしょうかとという点で少し曖昧だったため、個別最適化な学びとはどういうことかまた、実現するためにどんなことをすれば良いかを具体的に教えていただきたいと思いました。

篠原先生の「個別最適な学び」について現場の教師がイメージできるようにして欲しいというコメント、全く同感です。イメージがしにくいので、タブレット活用が中心になってしまっているように思います。本来の目的はもっと深いと思います。

授業で ICT を使いこなせる前提でと言う言葉を聞き今まで GIGA スクール構想で個別最適な学びにつながられる等たくさんの利点を学んできましたが、実際に授業で使えるかと言われたらどう使えばいいのか分かっていません。そのため研修制度があっても自ら学ばなければいけないと感じました。

中々学校で学ぶことの出来ないようなお話を聞くことができ、大変勉強になりました。

本当にためになる話をして頂き、ありがとうございました。勉強頑張ります。

率直で不躰な感想を失礼します。

これまで大学の講義でそれぞれの先生に教育法や教育学をご教授いただき、その都度納得してきました。が、教員採用試験の勉強を始めた頃から、学びを進める中で次々に出てくる教育時事的なワードの意味や解釈の仕方に悩み、戸惑っていました。それは自分の能力不足かと思っていましたが（もちろん大いにその通りではありますが）、今回のシンポジウムで先生方が討論されている内容を聴いて、まだ土台を固めて軸を作っていく段階にあるため不安定なのだということを実感しました。一教師になろうとしている身としては「上の不安定な決定に振り回されることになる」という不安は拭い切れません。それでも大切にしたいことは、多面的・多角的に物事を捉えて、あらゆる可能性をについて考えながら教育に携わっていくということです。

管理システムの拡充による危険性、シティズンシップや well-being を守りながら（目指しながら？）ギガスクール構想は進められるべきということ等、これまで考えることのなかった視点を知ることができ、頭の中はパンクしていますが大変面白かったです。今回出てきた語彙だけを思い返しても、自分の学ぶべきことの多さを感じます。貴重な機会を頂きありがとうございました。

令和の日本型学校教育について、その意義や背景を詳しく知ることができ、さまざまな専門的な視点から話が広がり、知識としてなかったものもあったので難しい部分もあったが、これから教員になろうとしている者としてさらに勉強していきたいと感じた。

令和の日本型教育の答申に関わった文科省の方から話を聞いて、個別最適な学びと協同的な学びを実現するためには、ICT がとても大切だと分かった。ICT 教育が確立されれば、コロナや自然災害等で休校になった時でも家庭で学校現場と同じように周りの子の考えを交えて、よりよい学びを実現することができる。しかし、私は機械操作が苦手な方なので、教員になったら研修に積極的に参加したり、アドバイザーや周りの教員に助言をもらったりして、子供たちに負けないよう努めたい。

本教育フォーラムを通して、オンライン指導の成果と課題の実際、GIGA スクール構想について、教科担任制について等、様々なことを学ぶことができました。その中でも、私は、令和の日本型学校教育の構築に向けたお話が特に印象に残っています。

デジタルとアナログといった二項対立に陥らず、両方を上手く組み合わせて教育を進めていくことが、令和の日本型学校教育の基本的な考え方であるというお話がありました。

一人一台端末や少人数学級といった環境の充実が進み、子どもたち一人一人に寄り添った指導が可能になっていく中で、デジタルを的確に活用しつつも、個別指導やデジタルのみにとらわれず、一斉指導やアナログ等の良さも見つめ、適切に組み合わせて教育を進めることを大切にしたいと強く思いました。

情報社会が進むにあたってデジタル教材の活用であったり、ICT の活用であったりと教員や教員を目指すものがこのような活用方法などを理解した上で教壇に立ち、授業での関連を考えながら使用していく必要が高まっていることが分かった。

現在、日本の学校教育が大きな分岐点に立っているということを学んだ。

「令和の日本型教育」という話があり、そこについてのパネルディスカッションでも各先生方がおっしゃっていたことだが、学校教育制度にも、学校現場にも様々な問題がある。それは、ICT 教育の活用についてデジタルシティズンシップを用いることが大切であることや、管理（監視）制度によって児童生徒のプライバシーが消滅するのではないかということ。また、個別最適化の教育とはということ。

これらの解決のためには芳賀先生がおっしゃっていたように、諸外国のように法律を作るなど国をあげて動くことが重要な因子の 1 つになるのではないだろうか。私は教育学部に在籍し、教育に関心を持つため、ICT、GIGA スクール構造など新たな教育体系を知っているが、教育に関心のない一般人は知らない人の方が多いだろう。しかしながら、教育を受けさせる義務を背負っているのはその一般人の方々のほとんどである。つまり、我々教育に関わる人間だけが改革に前向きでも結果として変わることは中々望めないのではないだろうか。だからこそ、国が政策として動くことに加えて、法案など国民にとっても大きな出来事としても動くことに価値があるのではないだろうか。

また、教育の ICT 化によって登校という概念が薄まる。つまり、学校は行くべき場所という概念が無くなるという話があり、それによって不登校という概念も薄まるということだが、そのような特別支援といった考えも今後大きな意味をもつと感じた。しかしながら、上述と重複する部分があるが、児童生徒のプライバシーを守ることや、自主性を保つこと獲得することがより大きな課題となってくる。

現場の教師は当然そうだろうが、私たち学生も教育制度、実状というものに改めて目を向けて、これから先の令和の教育というものを考えていくべきだと感じた。

令和の日本型教育として、最重要視されてる「個別最適な学び」と「協働的な学び」について、教師としてどのような教育をしていくべきなのか考える良いきっかけになりました。特に、ICT の活用が進められるなか、一斉指導と個別指導を効果的に活用していくためには、どのような授業を展開し、どのような支援が必要なのか、これから学んでいく必要があると分かりました。

今回の教育フォーラムによって、今後の教育について有識者の方々の意見を聞きつつ、自分自身も考える機会となり非常に学びのある時間だったと考えている。

オンライン講演の中で紹介された1人1台端末環境を活用したデジタルならではの学びの実現を目指した「MEXCBT」や4月より創設された「GIGA StuDX」など多くのことを新たに知り、学びになったと同時に勉強不足を感じることもあった。

後半のオンライン・シンポジウムでは「個別最適な学び」や「1人1台端末状況下での自由」についてなど考えさせられる事柄が多くあった。芳賀先生の発言にあった「スイッチ1つ押すのも先生の指示がなければダメな状況」「指示がなければ使うな」という環境は自由とは言い難く、学びの制限にも繋がると考えた。一方で端末の無制限使用可能状況も児童生徒が違法ページへのアクセスやウイルス感染などのトラブルを招きかねないと考える。その対処法として履歴などを元に監視するのも、プライバシーの権利から得策とは言い難い。

素人目線で具体性に欠けるものだが、岐阜聖徳学園大学のマナログでの出席確認の際、各講義のその日に用意された暗証番号によって出席が確認されるように、各授業、もしくは各教師がその日所持する番号を入力することで端末の利用の幅が広がり、番号がない場合は多少の制限があるが児童生徒は端末を使用できる状況はどうだろうか。多少の制限の具体性やこれを実現するプログラムなど問題点は多いが、現時点ではこのように考えた。

第1部

世界において日本は読解力が低いという事実には驚いた。また先進国でもあるのにも関わらず、ICT活用が最下位であるという事実にも驚きを隠せなかった。今の学習指導要領をより確かにするためのGIGAスクール構想であるということを知った。目的を明確化してiPadを使わないといけないと思いました。

第2部

主体的になる。自分の意思としてICTで表現できることがGIGAスクール構想のモットーにあることが分かった。芳賀教授がおっしゃっていたように、表現の自由がなくなるのではないかとこの恐れがあるため、欧米のように法律を作らなければいけないというところに深く共感いたしました。今までマイナーなものと放置してきたものを、今こそやるべきではないかと思いました。デジタル・シティズンシップについてもっと学びたいと思いました。

教科書の無償がデジタルになると無償ではなくなると聞いて、どちらがいいのか、これは考えることが必要とともに、ゼミ生などのみんなの意見も聞いてみたいと思った。

令和の時代において、新型コロナウイルスの蔓延の中オンライン教育が進んでいる。それと共に society5.0 の時代を生きる子どもたちが「生きる力」を養うために、個別最適化され、創造性を育む教育」を実現させる施策 GIGA スクール構造の実現が目指されている。

講義の中でもあったが、オンライン学習による教員と子どもたちとの絆が離れてしまうこと、手元が見えず学習状況が把握できないこと、集中力の持続性の低下、個人情報取り扱い等、様々な問題が出てくる。それにより、せっかくの ICT 活用に制限ができてしまったり、なにかを行うにしても指示がないと触ってはいけないという自由度の低下が起こったりと、有意義な ICT 活用ができず、GIGA スクール構造の実現から離れてしまうと考えた。実際に ICT 活用が進んでいる現状があるため、自由度を保ち、子どもたちの自主性、興味・関心を大切にしたいうえで今後の GIGA スクール構造が進められるべきである。そのために、教員の ICT 活用能力の向上、高速通信環境の整備、より安全が保障される法律の考案等が必要であると感じた。子どもたちが、自由に自分の気になったことを学習でき、自分から追求する姿を大切に、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性等、生きて働く知識・技能、これらの「生きる力」のために GIGA スクール構造の実現が目指されていくべきであると感じた。